

823  
MN2

紙  
以  
入  
楚

期  
佳  
友

26

Handwritten text in a cursive script, likely a list or notes, spanning the upper half of the left page. The text is faint and difficult to decipher.

Small handwritten text or mark at the top of the left page.

Small handwritten text or mark in the middle of the left page.

Small handwritten mark or character at the bottom right corner of the right page.

常集

三十六歲

大政大臣

六月六日東院東釣殿道遙

內大臣公達齋會

源氏尋近江君

西對御前瞿麥花盛之

源氏君彈和琴哥黃河給

內大臣毀源氏給

西對姬君

內大臣渡雲井鷹方給

其次窺見江君与五節君打双六

內大臣殿与近江君語給

近江君奉文於女御殿

常表

必以詞并款為卷名

但云葉ハハアテトコトハ一物ニ名也又云ハハアテトコトハ

河本ノ名アテトコトハ本あり一此等トコトハ本也此等トコトハ本

私云ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

以ての例と日ありし一此物ありし出させのひて

河京中名跡記約成今此云案記是也

京中名跡記約成今此云案記是也

院ハ今物記ハハアテトコトハ本也

案云ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

ハハアテトコトハ本ハハアテトコトハ本也

あふをあいつてたててきくはむのてあふこれたて  
 とくそよわりのことものたてしるさくしやあふすゝあ  
 竹原のひよ原をすゝ海に渡りけしやうかてりあふ  
 とむとそよ原をすゝ海に渡りけしやうかてりあふ  
 今本 愚之思ひあふたてきくいとてしるあふ  
 中將の君也

秘 夕暮

あふ河の源と人

秘 今案流家司

あふ河の源と人 西官抄禁河流河右

川ハ禁河也此河右流と供御也 西官抄禁河流河右  
 河ハ西川之如禁野已上案ノ分ノ 桂川ハ此河禁野也  
 禁川ハ康保三年八月十九日御記云遺左右者管使巡検  
 洪水其五六糸及西川瀬々如海也 其ノ泉ハ今ハ新井  
 高野ハ鴨壺也と必ず貴族と云ハ其のこ也 見包下譜

今案

西川の河は西川に合はるりといふ

今案流家司  
 西川の河は西川に合はるりといふ  
 西川の河は西川に合はるりといふ  
 西川の河は西川に合はるりといふ

あふ河の源

秘 今案流家司

あふ河の源と人 西官抄禁河流河右

今案流家司  
 西川の河は西川に合はるりといふ  
 西川の河は西川に合はるりといふ  
 西川の河は西川に合はるりといふ

御記云延長十七年三月十七日案入云新井流此院ハ是取凡  
 今案流家司也大納言源朝末在在案法也 今案流家司

時乃系物ともあり

いし姫 石卧 麩 和名 麩 日上

義 麩 和名 仔之不之性伏沉在石乃 時乃系物と書す家

継振之物於御前御味之例亭子院御集并うが下御懐

必亭子院御集云いし姫 麩は物水くしと御しと其

うふふつりたり何ふいと見えし川麩一と云ふ

物一と云ふいさうせあつと見ると今とせと物と御あふ

りて潤ちしせぬふくきりしてまのふ

麩 音夷仔く不く 和名 性一前ふたり 日上

むりとのみあつら 秘 一と云ふむり

義 柏木山下見す 義云序りハ柏木系入無くあり

或柏木紅梅并ハ將及訪送夕音と為て来り給ふあり

と云ふ

ひありて 義 氷あ冷あり 枕草子云いしと云ふ

ふくれぬえぬりしと云ふと

矣水あぬや、わのぬありり 和 一

秘 氷室仁徳天皇六十二年夏五月幸江国司始献氷 氷鏡 八

仁徳天皇二年申引し御と云り 蟬吟書之勅付年日本記云

麦ぬとぬぬは漬してすもいしりぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

早速と云り 枕草子云いしと云ふぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

と云ふとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

よいしと云ふぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

と云ふと十二宮引しと云ふと 麩ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

事と云り 今案と云ふぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

矣干飯ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

秘 今世と云ふぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

と云ふとてぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

秘 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

義 早速と云ふぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

何てか思ひに夕暮なりしれはつゝ新思を新し

秘 菱は京氣ありしはつゝ新し

蝶のふもたつたや

氷のうへひしつゝの如

源は清くは秋避暑の生也

秘 源の別くくもしてさる清くは涼

いせの清くは涼くは涼くは涼

しつゝひつゝつゝ

いせの清くは涼くは涼

失のさるひつゝつゝ

こゝ死ん

或あつて

多し

義 帯紀しる字訓

なつてひつゝつゝ

わらひ

或年

あつて

或内

い

義 源の別

或全

か

弁

あ

い

ひ

何

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波

東波





好集 何厚ハ父母次ハ先身ハ多ク不列ト乱トシテ寵ハ是ト厚好ト云

い此妙ハ此ト云フヤ

權奏ニシテ此ハ御中ヨリ御云ニ念付ルハ心ハ仙云ニ欲ク多クニシテ

此ハ未タ父事ニ妙ハ此ハ念付ルハ心ハ御云ニ欲ク多クニシテ

或御鏡ハ眞ノ字トシテ御多ク御云ニシテ

い此トシテ御云ニシテ

義之ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

義源ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

い此ハ御ノ御云ニシテ御云ニシテ

好集

御云

權奏

此ハ未タ

或御鏡

い此

義之

い此

義源

い此

い此

い此

い此

い此

い此

い此

い此

い此

い此

支ししるふし 義方音の乱る人統う物本に相と具ある此

序ニ八年が將者ゆ後足牙面人年し物本ハ人日此序小義方音

源氏毎が將と稱してはしりて守のて合え物本が来之しあり

玉まゆ人母のわといふは信ふれとせぬとせぬとてあし之如し

私ひ義方氣むの物本もく義と月人しとては親つては物本

やともは此為事とていし夕音に源の言ふし

か將しゆ後とてい 秘方してんしり皆是枝とていんて云し

義方將八年が將之次男紅面し有ゆ後之曾乃親の將し若し口衣是枝

あそしやともは此為事とていんていんていんていんていん

秘夕音とていんていんていんていんていんていんていん

源氏夕音小宮小朝し為事とていんていんていんていん

雲井乃事と稱してはしりていんていんていんていん

義源別夕音小宮ひい心し為事とていんていんていんていん

これとていんていんていんていんていんていんていん

人し為事と名れ 若者といふれ聲に言ひさうひ給といれん

いんていんていんていんていんていんていんていん

いんていんていんていんていんていんていんていん

河 ちうちう 粉母うう 村小若いんていんていんていん

秘 門大これ御子しうううういんていんていんていん

公長女音小娘若しゆりこれぬりて源の念しありて宮小朝し

義云引可我の御子し粉母し一絶つたり云井乃事しいん

ませく我の御子し粉母しいんていんていんていんていん

あれせしめしめしめしめしめしめしめしめしめしめしめ

君しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

心小分ちぬ義がれいんていんていんていんていんていん

ろしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

いんていんていんていんていんていんていんていん

義方此段者し小坊しりりりりりりりりりりりりりりり

心しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

河 此源しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

まいんていんていんていんていんていんていんていん

あまねきしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

源のひんていんていんていんていんていんていんていん

源のひんていんていんていんていんていんていんていん

くまのしやうつひて

をいふと初めはかきとてはたのし

はたておろしとてかみせありていそひ

義之此一後海のかみしとていふと初めはかきとてはたのし  
まうしとてはたのしとてはたのし

多しの娘君

あつし

あれつしりりかかぬとていそひとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

言一設りてとてはたのしとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

あつしとてはたのしとてはたのし

くはあしとてはたのし

内たはれとてはたのし

りてとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

あつしとてはたのしとてはたのし

義 内たはれとてはたのし

あつしとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

義 内たはれとてはたのし

いそひ

義 内たはれとてはたのし

とてはたのしとてはたのし

道りつとてはたのし

くはあしとてはたのし

私をまてとてはたのし

あつしとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

前りつとてはたのし

まてとてはたのし

公屋

義 内たはれとてはたのし

あつしとてはたのし

いそひ

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

あつしとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

あつしとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

あつしとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

秘 ちやハ初字とておろしとてはたのし

ね〜〜ね後切早〜後秘〜  
そのひく〜白義ま 秘うら悲ひ〜源の宮ふたり

義源の御そ〜いおろ〜く〜  
とそ御前の〜も也御も程の〜うきれ〜を〜  
か將約候なりや 秘是〜り源の御

義年かお友約候なりや 秘一源の御なり  
た〜り〜して〜  
い〜も〜り〜と〜ぬり〜

と〜も推し〜〜  
〜し〜始ふ〜り〜して〜お〜  
義お〜〜と〜先〜舟〜も〜不〜知〜本〜  
申おれい〜と〜り〜れ〜ん〜

秘夕音の〜と〜り〜  
義云夕音〜  
〜かお約候〜  
ぬ〜〜と〜〜

共柏木中約〜  
〜り〜  
右中約〜  
ま〜〜

秘始末の〜  
此人〜  
〜  
私此〜

秘杉〜  
義〜  
か云直人〜  
ひ家れ〜

〜  
〜  
秘〜  
〜

細碎 白氏文集

さびりくくうあうの物 始り也 義ひうくといふ

引つもそらばしひちふとふかあうううく多ふ

私ひ言とんこひなるんう何と白と仰て言くと秋奴を

源の御女がうそあうは建と申ふとあうは明る姫君ハ

いまこはさあへおく一何一又世方かう色伝うのうと申

うにうかふと記といひううくおはさうの

義云ううん人こころは極あれと御息女れくおはう人

れらうううんあうううあうう

中源の内れ海うりもか安れやうくしおはよひう

くて物 始り也 義お登と貴育のうりも其かを

後ひこの 秘々此公の初もんうううかふおけ

私人の言ふう海うううううれあふうううう

人言ふ言れかりういさかあう申あれ

御常のみうりうう一れせんういなるうう世始り

牛麦 万葉 石竹 同上 義 金錢 白氏文集

何架 兼

ませいとあうく 秘々うれう一此前夜とあきうれとくうて唯あて

うりうううううううううううううううううう

常本とふうれううううううううううううう

これゆらううう 秘屋上人の言ふれりおうううう

公れまはをりううう 義屋上人の言ふうううう

あうううううううううううううううううう

いうううううううう 美りううううう

秘源の詞におううううううううううううう

義源の詞におううううううううううううう

右れ中ねをううう 秘うううう 白

義云木之本源ううううううううううううう

いふはあうううううう 秘忘りか氷風うううう

うううううう 秘ううううううううううう

中乃乃君をくくは中に

英夕暮れ事

秘夕暮れ小傑出よふか(若子地)

義物説乃地なり

中乃乃君をくくは中に

秘源の別名お房とゆふれうお事なり

必に〜八日大和とらふ是くありおつれ君との物説なり

海〜こののりくきつりしう海中にあり君とらふく〜これ

必夕暮れ事〜く〜これがふを顔字〜是の君なりお心(方ハ

〜めい乃〜とてりかふ〜事なり

秘信乃〜は〜皆さ〜ふ〜と〜おや〜源の〜い〜り〜り〜

義門大長は抄録乃如く源之王源氏族の長は〜首と〜方〜

私源乃門大長は君を〜人〜と〜ら〜れ〜る〜中〜は〜夕暮れ又〜

〜れ〜る〜り〜と〜ん〜の〜て〜自悟乃を〜も〜ら〜り〜

〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 共おつれ別

秘おつれ乃別〜 雲乃乃乃〜 催る樂乃別〜

義源乃別〜おは〜らん〜も〜つ〜言〜ふ〜と〜吾家の別〜

終ふ〜夕暮れ〜こ〜り〜き〜は〜こ〜智〜ん〜乃〜か〜り〜れ〜も〜夕暮れ〜

乃此を〜や〜門大長と〜す〜て〜ゆ〜り〜

可催る〜吾家云我々家ハ格ら〜と〜も〜て〜う〜ん〜大君〜海世智

不せん〜と〜る〜れ〜を〜何〜も〜母〜の〜い〜は〜い〜せ〜ら〜ん〜

矣上ノ別〜大君〜の〜言〜ふ〜別〜よ〜う〜わ〜て〜催〜る〜吾家乃別〜

いてせれ〜こ〜さ〜か 秘源の別あり 催る余乃別

必び〜こ〜う〜れ〜を〜家〜れ〜別〜よ〜と〜し〜こ〜智〜ん〜乃〜地〜と〜

義源の別〜今〜さ〜ら〜り〜と〜ら〜や〜ん〜と〜ら〜り〜と〜ら〜

〜と〜ん〜乃〜と〜ら〜也 義云矣

〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 此亦家小あり 時乃事

〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 此亦家小あり 時乃事

必私を〜け〜と〜い〜不遂は〜是〜と〜樂〜し〜り〜の〜是〜又〜不〜及〜引〜奇

〜と〜こ〜下〜ら〜ら〜ら〜ら 義源乃事

秘源よ〜ま〜せ〜ら〜ら〜ら〜ら 義源乃事

うめ舟始小

源氏の神なり

義私之鬱陶——始小なり 義之嗟嘆

うめ舟始小

ふふううれんよふひめさう

義ふううれん心根を源と仰し 庭のかよ速懐のうもさほよわや  
秘ふううれん心根を源と仰し 中々後乃庭うてさううたへ

あやよらう

あうううれんよふひ源と仰し

庭の浦かあうううれん心根を源と仰し 中々後乃庭うてさううたへ

ふよ知れぬ心根を源と仰し 中々後乃庭うてさううたへ

此脚心と仰し 中々後乃庭うてさううたへ

月しり此比りれし

なげふらうてはひりや

爰を灯のをさううたへ

うらと火とそられ

或うう火灯とさううたへ

いこの建た舞火をあらううたへ 旋物なれあううたへ

和歌

こらふいとらううたへ

義考を爰にいう

義詠楽忌平調といらほ——て小常樂と依るは平調なり

おううと和歌と依るは平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

祝言小月ひくは平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

わかれと和歌といらほ

秘和歌と仰し

わかれと和歌といらほ 和歌も平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

甲しよと和歌といらほ 和歌も平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

秋乃和歌月氣と仰し

秋乃和歌月氣と仰し 和歌も平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

一阿と和歌といらほ

契月あとの長端をうたへ

秘月あとの長端をうたへ

義今案の争ふ言れ 案と依るは平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

而し和歌といらほ 和歌も平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

れいふと和歌といらほ 和歌も平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

今案の和歌といらほ 和歌も平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

言乃和歌といらほ 和歌も平調なり 平調勿論和歌なり 和歌も平調なり

福子急し合ふふりわ色びもの音つりまらうと出れ  
おれおひもちううあおといふや 己上箋

おんくしあましく色なりやちうけおや  
秘 ちうけのやとし 異因 萬云おんくしといふてあり

とらうとひ言流り形とほりありあり結とよけらば誠  
しういふとくしあまのやちうけおんくしといふてあり

こいものよ 和琴く 兼いものよし和琴といふ

す せめ結くい結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠  
こいものよとあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

秘 多しあまのよとあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

兼 此急して福楽急と調ふし

私いしうしこいあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

和まじしうしこいあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

兼 亥ノ字よりあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

己上箋 いやうしこいあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

和琴とあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

かふあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

秘 和琴急なり河海ノ説あまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

私いしこいあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

上ノ調いしこいあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

おんくしあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

秘 女なりやの字よりあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

兼 云左樂ハ右樂ハ左樂何れかおれ樂ノ筆あり女也

おんくしあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

物とあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

おんくしあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

物なりしうしこいあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

源乃よらうしこいあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

秘 ひし樂にあまのよと結りしうしこいあまのよと結とよけらば誠

兼 芳ハ福樂急ト合セりてと代助結し 譜ハ一卷今よ



秋まじり鏡より常楽くらり作り

海よりかきとて

秘和琴の琴ののこる心とのほろろなる方鏡物

秘和琴の琴ののこる心とのほろろなる方鏡物

なまめなりし実のけりし何事かそれなりし

これ内は

秘法はるなり

おなりしとて鏡なりや也

秘和琴ののこる心

秘和琴ののこる心

和琴ののこる心

と若くともやと源語類字云及脱和琴にあり

私銘れ終らるなりし

或筆にとわくこと事なりし

私此事不審可なり

ふ海川ののこる心

ケ云和琴ののこる心

ふらぬもの言なりしと福樂志の合せし心

ふらぬもの言なりしと福樂志の合せし心

ふらぬもの言なりしと福樂志の合せし心

いふことなりしと

いふことなりしと

内大和和琴ののこる心

かろくわぬもの言なりしと

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

いふことなりしと

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

秘おれ中へ

とらねるものありててかたじけなく  
阿波のれんや色あまのりたれは流しよかりきりやとて流しよ  
とていさるに流者乃ちうりやとてとるはかたじけなく流しよ  
らうりぬれよあまのりやとてとるはかたじけなく流しよ  
れをうりやとてとるはかたじけなく流しよ

山 必 是ハ源氏中御詞ナリ 秘同

義源ノ詞ニ 今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
と解すノ詞ナリ 秘賢ノ字トシテ不審ニ云はる

あはれまはしそ 其ハ中ノひめりやとてとるはかたじけなく

秘山ノ詞ニ 今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ

義上ノ詞ニ 今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
若クハ中ノひめりやとてとるはかたじけなく

御前乃取あまのりやとてとるはかたじけなく

河 圖書云裏書ニ景代ノ御物被置所也 和琴ハ伊勢諾伊勢  
冊尊令作出給 仍信集等乃取上小ありあはる

必 和琴ハ伊勢諾伊勢冊之二神乃御代なりといひてさうりて  
日本紀ナリとて今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
祢言ナリとて今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
とて今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
友とハ若書寮と云女友とハ書司と云和琴と書司ハ女友也  
名と云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
若物ノ系ハ今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
とて今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
此詞ハ月所ニ 和琴と云はるは事也といふ

秘 義源ノ詞ニ

必 必 曾友ハ若書寮女友ハ書司と云和琴と書司ハ女友也  
我ハ今云さうハ賢ノ字ニ じいりノ書ハ今云さうハ  
仍云と云はるは事也といふ  
和琴監觴於て忘テ居ル神意ハ時ヲ云法と云て打ハル  
是事ナリ 一説伊勢諾伊勢冊尊令作出給 日本紀ニ不見ト云ハル

これと物乃りや 秘 秘と名のいふやとてふかぬ

それなりとてあやせとていふ御まじりとて

何んか未だらぬもの秘をいふとていふはこれなりとて

をいふはいふとて秘をいふはこれなりとて

秘内なる秘事とていふはこれなりとて

あににやわとて 秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

これをいふとていふはこれなりとて

これとていふ 秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

又此事にまじりぬは 秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

ていふはこれなりとて 秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

これをいふとていふはこれなりとて

あににやわとて 秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

これをいふとていふはこれなりとて

これをいふとていふはこれなりとて

これをいふとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて

秘 秘はこれなりとていふはこれなりとて



たきわけて ありけりてなり

養秘三和のりてふれわしく合奏一のりなり  
うけわ申れは後して おうこれゆ

ふら後をうれゆりゆいれはあつたれはゆりゆり 養日  
あふゆゆるん女一 向王女 玉後の女けり 養

秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
ふゆゆるん女一 おうこれゆとふれぬけり

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日

あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日  
秘あふゆゆるん女一の女れりてなり 養日



ゆきのひらきまじり

源中のかたり

さうりゆきまじり ふうりゆきまじり源のたけなまじり

源中のかたり くれんりいんやまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

美言れんこい基上 秘因

こり脚かまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

美言れんこい基上

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり

さうりゆきまじり





ふ川に流すありしに

義母のあはれ (秘) 八いせき

ぬきしと二白とあつ子地と

義母のあはれ

内丸の御いふ

義母仕へ

今丸御いふ

義母のあはれ (秘)

厚丸の御いふ

内丸の御いふ

ひをいふとよりなる中丸の御いふ

世ふもかりけぬる事也

秘) 今丸の御いふ

奥丸の御いふ

義母の御いふ

か將の事いふ

義母の御いふ

いふひの御いふ

内丸の御いふ

義母の御いふ

まことあそと別りて

山丸の御いふ

世ふの御いふ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

それと別りて

義母の御いふ

か將の御いふ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

秘) 今丸の御いふ

いふとてそゆ

秘) 今丸の御いふ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

いふとてそゆ

秘) 今丸の御いふ

いふとてそゆ

いふとてそゆ



ゆくつらあてうからん

秘 雲乃乃其御言ふ風海り給也

義門大老公申に海くさひ流せぬふゆりけうらふとてつゆり

とて居るは水くさの風おうらふかしくてあつて不意に

五日大老公申ひもいもぬらへる居るは命を風さうり給也

おゆりし御しよん 年少将

姉君さひる将 給ふかやとたり

うとこのおとくはうのうとあふふかこ後

と居るは命を給のさゆへ

あつらひくくみしは

麻とて海よりきりかうらひを流さうらふ

とに麻とりらふかとおのまう海くさあふあり

くさ とき居るは命をうらふとて

あつらひくくみしは 義門大老

何れもくくみあけりか とき居るは命をうらふとて

うとて給さういふとあつらひくくみしは 何寝又人情友 假寝 見莊子

ふとて給さういふとあつらひくくみしは

義門大老公申に海くさひ流せぬふゆりけうらふとてつゆり

川并の海くさひ流せぬふゆり 比何味在り

私を井乃公考と申居るうて物もふかたり

女を身とつひに流しめて 私家の事なり

義門大老公申に海くさひ流せぬふゆり 可勝なり

うとて給さういふとあつらひくくみしは 女を身とつひに流しめて

又あつらひくくみしは 女を身とつひに流しめて

ゆとて給さういふとあつらひくくみしは 不動学院羅尼 慈教院

義門大老公申に海くさひ流せぬふゆり 不動学院羅尼

あつらひくくみしは 義門大老公申に海くさひ流せぬふゆり

うとて給さういふとあつらひくくみしは 中いつ色なり

義門大老公申に海くさひ流せぬふゆり 義明大老公

うとて給さういふとあつらひくくみしは 秘

必伊勢物語に 比こつとたり

私后の御しよん ありかより地とをれ道らいつるは

美風事にかうらふとてあつらひくくみしは

とくはゆめくるみあししや いらしむらひさしむら

一此を不乃く過不及なり中庸の旨と云ふ也

礼をさへしあつめとい平字の礼也 是色をさるる及礼  
心平字をさるるめと云ふ海草なり

まじしあつめなりと 是色をさるる評判也

多しあつめなりと 公礼の如くは色ありは其の如く

なりあつめなりと 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 成長より明な事なり 秘日

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

秘 公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

秘 公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

公礼の如くは色ありは其の如く 公礼の如くは色ありは其の如く

大なるうらやまの言ひおぼろしくあはれしと云  
矢色丹乃風雲と云ふ  
くればおぼろしくあはれしと云

義能母御言もは内なるれ一云  
あはれしと云ひの言ひをいふ  
く言ふと云ふ内なるれ事  
はしこれおの對費の今作也  
義と云ふれ事(是より)

く言ひしと云ひしと云ふ  
是を心を心丸く言ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

義能母御言もは内なるれ一云  
秘

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ  
く言ひしと云ひしと云ふ

私云花鏡也(少と云)

いせりつゝ一と云  
い御さう海を  
女御の御事と云(秘)

面白の梅毛  
向ありと云のり云い梅れと云を云ありと云わたりと云は  
秘

秘  
私希の引前よにりらと云い梅れと云を云ありと云わたりと云は  
秘

中ねんつゝと云  
人つゝと云いりりりり  
心ち居ん中

秘  
中ねんつゝと云  
人つゝと云いりりりり  
心ち居ん中  
秘  
向ありと云のり云い梅れと云を云ありと云わたりと云は  
秘

義  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり

義  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり

義  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり

義  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり  
い心と云一と云いりりりり

秘らいつれあをさふこ 義女は若れうら出か養と小同くこあぬ  
来あひくれさいをりてりこあぬ 秘門 義女は若れこあぬ

ういあゆりし物さしこえよりのこ切はひも有とこさしこあぬ  
中捕養へ我し今ふらふらふらひひあゆり

色そいゆらこささるや 何 古早 義女は若れあゆり

うれとさしてさせい 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

てし前と違りうらや涼哉とあゆりてしは返みこりり 義女は若れあゆり

ひんをささるささるささる 秘めささる 義女は若れあゆり

脚あゆりやゆや 秘女は若れあゆり 義女は若れあゆり

義女は若れあゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

あゆりやゆや 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

中にささるささる 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

うらゆりゆりゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

私物ゆりゆりゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

うらゆりゆりゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

あゆりゆりゆりゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

うらゆりゆりゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

あゆりゆりゆりゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

英公  
引寄可儀  
さしこあぬ  
とささる  
れつこあぬ  
んゆりゆり  
といひゆり  
れつこあぬ

あゆりゆりゆりゆり 義女は若れあゆり 義女は若れあゆり

色々のわつり記 己のひ衣をふあらしむる如く  
しんよ阿つらなぐし 秘家身に似るる所をいふ大下位字也

義父おとれ家つらうし 秘他人と見えぬなり  
くえんし 秘あはれ 必ふふと寝よてんふふの若れ似り

よひあれ家つらうし 秘あはれ  
つて能く 秘前ハこれに似るるなりゆた下位字也

娘がまま 秘此は此の如く  
義之此 秘此は此の如く

必父に 秘此は此の如く  
は 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
義内 秘此は此の如く

ま 秘此は此の如く  
て 秘此は此の如く

け 秘此は此の如く  
日 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
向 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
一 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
義 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
私 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
甲 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
於 秘此は此の如く

い 秘此は此の如く  
此 秘此は此の如く

幸ふゆか  
りハ柳掌  
ヲハハハ  
ハハハ



大いなるお母も存目よとありぬ物なまじしと我れ申すに  
親乃仁神乃女子のあし事にて親親をいひ申す物之呪  
日大長御女とてありしとていふ人かたしとていふ人  
らとていふ人かたしとていふ人

かたしとていふ人かたしとていふ人  
まじしとていふ人かたしとていふ人

いひしとていふ人かたしとていふ人  
やうに言ひしとていふ人かたしとていふ人

事しとていふ人かたしとていふ人  
らとていふ人かたしとていふ人

何れとていふ人かたしとていふ人  
必しとていふ人かたしとていふ人

何れとていふ人かたしとていふ人  
必しとていふ人かたしとていふ人

必しとていふ人かたしとていふ人  
必しとていふ人かたしとていふ人

必しとていふ人かたしとていふ人  
必しとていふ人かたしとていふ人

御常とていふ人かたしとていふ人

秘日

えれんとていふ人かたしとていふ人

いれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

れれんとていふ人かたしとていふ人

義別当大徳也 妙法寺近江國神崎東郡高屋郷内与寺有邊

妙法寺村ト云本尊觀音ニ

義兼和九年十月廿七日拾云妙法蓮華經寂勝王經別々一人

毎年聽度隨業名入在近江國妙法寺華取勝木寺其試定者

始從席品盡令暗誦一讀一讀

今案を以て若しと云うて若し又

此妙法也此大徳の御座りたりと云ふ事は此法を

あつてのしあへ

若しあつてのしあへ(常法を世に傳へし法を)

義私に云ふことなりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

あつてのしあへ(常法を世に傳へし法を)

いとこれさうと云ふ事なり

義(此法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事

義(此法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事

あつてのしあへ(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事

そと此法なりと云ふ事

義(此法を世に傳へし法を)

何吃誦 若得為人龍聲音瘖瘂乃至謗斯經故推羅如是 法華

大云(此法を世に傳へし法を)

義(此法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事

必弘微嚴の如御の事

義此ありと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

私に此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事

必次

そと此法なりと云ふ事

秘(此法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

そと此法なりと云ふ事(常法を世に傳へし法を)

うけかしてらんしあり

秘 女卿乃西里小う海を時あり花に

義 用之れ義(女卿)後置居(給)時新(給)上(之)ふ(之)内(を)と(り)

いんやうきうーとふとにせ

義 七(以)若(胡) 秘(同)

卿(の)あ(ま)子(由)と(り)ー(り)れ(ん)と(り)ん

義 事(と)あ(ん)上(後)切(く)給(ひ)ー(と)合(し)甘(せ)胡(と)乃(母)後(後)

秘 比(列)を(下)に(け)ー(う)海(胡)之(別)よ(り)あ(ら)て(ん)一(年)山

を(長)慈(外)な(お)と(成)り(ら)ん(せ)也(と)

秘 秘(て)も(と)あ(ら)も(と)び(り)乃(何)事(と)あ(り)あ(ら)も(と)あ(ら)も(と)

あ(と)ら(も)ー(り)て(も)

義 秘(の)こ(ら)に(け)ー(し)系(後)物(あり)

い(れ)を(非)役(と)し(け)ん(ん)と(り)

秘 法(花)經(と)分(け)ー(し)は(花)を(と)あ(ら)も(と)け(ん)と(り)ん

い(ま)も(と)ー(り)と(り)ん(と)ハ 今(も)も(と)ー(り)ん(と)と(り)ん(と)

い(ま)も(と)ー(り)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

い(ま)も(と)ー(り)と(り)ん(と)

義 日(之)長(を)秘(胡)あ(ら)も(と)

い(ま)も(と)ー(り)と(り)ん(と)

義 日(之)長(を)秘(胡)あ(ら)も(と)

秘 日(之)長(を)秘(胡)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

義 採(薊)及(菓)蔬(也) 義 云(あ)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 採(薊)及(菓)蔬(也) 義 云(あ)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

い(ま)も(と)ー(り)と(り)ん(と)

上(ノ)胡(乃)妙(法)を(別)當(れ)事(と)い(ひ)あ(ら)も(と)あ(ら)も(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)

秘 秘(の)あ(ら)も(と)と(り)ん(と)と(り)ん(と)



毎いねひれをわや 記志も余の中 可表へかれひつふ  
私へのつさへも知れん 記志も余の中 可表へかれひつふ  
若是らるし物浪の家 批判しめりて

忠也たふしあさし 忠也たふしあさし  
義私と先と忠也たふしあさし

かどけそふつて 義公ひ股之物 浪地を評し  
うらさみ あつたあつて 義秘がら 安年 結より

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し  
うらさみ あつたあつて 義秘がら 安年 結より

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し  
うらさみ あつたあつて 義秘がら 安年 結より

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し  
うらさみ あつたあつて 義秘がら 安年 結より

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し  
うらさみ あつたあつて 義秘がら 安年 結より

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し  
うらさみ あつたあつて 義秘がら 安年 結より

かゆくくく 記志も余の中

義公ひ股不實

私義よび義不實 記志も余の中 可表へかれひつふ

私義よび義不實 記志も余の中 可表へかれひつふ

私義よび義不實 記志も余の中 可表へかれひつふ

私義よび義不實 記志も余の中 可表へかれひつふ

私義よび義不實 記志も余の中 可表へかれひつふ

私義よび義不實 記志も余の中 可表へかれひつふ

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し

私義よび義不實 記志も余の中 可表へかれひつふ

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し

あつたあつて 義公ひ股之物 浪地を評し



けつむじろりれろりしと ちろりろ新ふじろりをれ

あひらね笑とふまじろりしと

なぞれ笑とや 寛平北御門にうかろろれ給て北御下

れろりしにのこりてらせ給ふろりあそりせ給ふりれ

四身不<sup>うしん</sup>もきていふふとやろりあそりせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

あつれもじろりしとてらせ給ふりれ

いづらふらぬり侍なりと云ふを乃なりて  
田子れうし波

あはれもあれ也 秘あか河なりと云ふあり

義中より中より大川なりと云ふは波のなることなりと云ふは  
あはれもあれ也と云ふは河ありし川なりと云ふは  
あはれもあれ也と云ふは河ありし川なりと云ふは  
あはれもあれ也と云ふは河ありし川なりと云ふは  
あはれもあれ也と云ふは河ありし川なりと云ふは  
あはれもあれ也と云ふは河ありし川なりと云ふは

いもさうらふ

いもさうらふ

いもさうらふ 義中納言君

いもさうらふ

いもさうらふ 義中納言君

いもさうらふ 義中納言君

いもさうらふ 義中納言君

いもさうらふ 義中納言君

唯今書み紙と瞿麦小作ら表本ひらり

私河をりてこれらうふふふふふ

私河をりてこれらうふふふふ

義中下女し副長女侍ありと云ふは

大川なりと云ふ

中納言君

いもさうらふ 女御中納言君

いもさうらふ

女御中納言君

義中下女し副長女侍ありと云ふは

義中下女し副長女侍ありと云ふは

いもさうらふ

義中納言君

義中下女し副長女侍ありと云ふは

義中下女し副長女侍ありと云ふは

義中下女し副長女侍ありと云ふは



此よりいふまじり記りとにせうつししれ中納言の懐り後し  
ひ故記を編脱不可然已上箋

秘 とうや所をるるりしれをわたり

もて出さるるあらし 箋 下り書後乃事とて面し

もていふあらしぬ人なりえ案よりとら記々へいし染結(中)

いしとせらにのこまらり建結(中)あしとせあしとせ

秘 中納言の事とせれお(中)中納言の事(中)

箋 中納言の事(中)終り此(中)中納言の事(中)中納言の事(中)

せんしとせらとせ 箋 作去(中)日 簡

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)中納言の事(中)

何一向嘲諷(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

秘 中納言の事(中)中納言の事(中)中納言の事(中)

箋 中納言の事(中)中納言の事(中)中納言の事(中)

万葉の形も但し一理しとあらし(中) 中納言の事(中)

と云ふと後り 帝陸 駿河海 持津(中) 筑前(中) 箱崎(中) 已上箋

あらしとせ 箋 女御の事(中)

秘 女御の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

それいふ人 箋 女御の事(中)中納言の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

とせらとせ 箋 女御の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

中納言の事(中) 女御の事(中)中納言の事(中)

義はりのまじりしつを治りふと見えしつて松と鳥を約とあゆむ也  
 義は作作ふれ服と作意と細と作りしつといふしつて古ゆり  
 びまむすゆ松の内神文の句々金云ノ義戒ノみ清久神一向修業  
 五留れり字とて付振 又其振び人源氏物語の相云と云不  
 此人か云能とて言ふ神正れ丸其分内はの事しり能吟味  
 いやゆきふゆり草物丸也 義云河 義云つらふ合ふ下品の  
 仍あまふゆりしと云 義下品草物丸甘き白ひまもや 義云ふ不  
 屋小しゆまのいしつていふ 何粉 白皮文集 是も見女子神  
 小野天祚七才の時の御奇 或ハ 麵子 荏菹 荏菹 荏菹  
 御多しりしりやいしつていふ 義云河 義云つらふ合ふ下品の  
 義云柱云ふりしり草物丸也 義云ひあふぬれ作と古神  
 むる能治り古ゆゆ書の特と上ノ刻のいふかぬ河治りしつていふ  
 来りしつていふゆりしつていふ 義云河 義云つらふ合ふ下品の  
 やとのうらまふおそむしつていふ 義云河 義云つらふ合ふ下品の  
 作るり行ふびふしつていふ可付眼也



